

BUDŌ

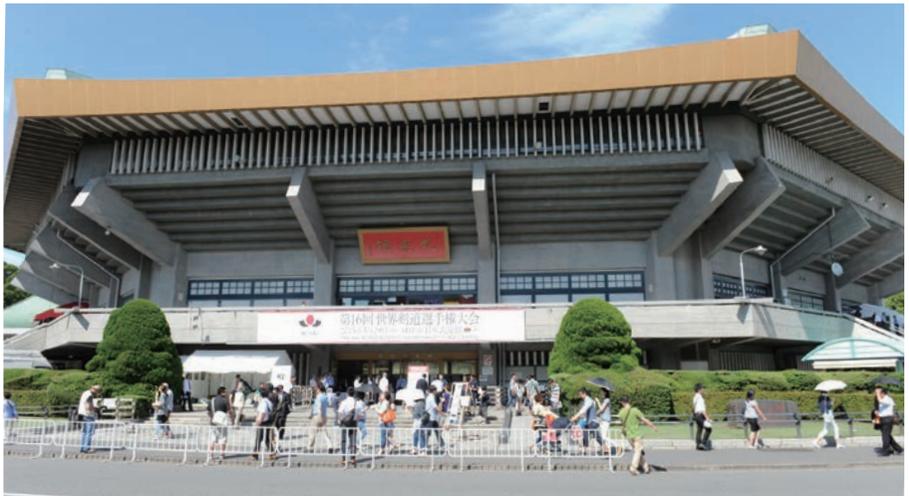
NEWS

今月のニュース

第16回世界剣道選手権大会
日本、世界一の座を死守



男子団体戦準決勝日本対ハンガリー＝安藤（右）が諸手突きを決める



第16回世界剣道選手権大会



日本、全種目で世界一

(詳細は4～15頁に掲載)





45年ぶりに日本武道館で開催



16th WORLD KENDO CHAMPIONSHIPS



日本、盟主の座を守る

男子団体決勝戦中堅戦、正代（左）の飛び込み小手が決まる

第16回世界剣道選手権大会
5月29～31日 日本武道館

第16回世界剣道選手権大会（主催
Ⅱ国際剣道連盟、主管Ⅱ全日本剣道
連盟、後援Ⅱ東京都剣道連盟）は、
5月29日から31日までの3日間、日
本武道館で、56カ国・地域830名の選
手が参加して行われた。日本代表選
手は、男子個人戦、女子個人戦、男
子団体戦、女子団体戦の全4種目を
制覇し、盟主の座を守った。

世界選手権大会は3年に1度行わ
れ、日本では1997年の京都大会
以来4度目の開催となる。また、日
本武道館での開催は、第1回大会か
ら45年ぶり。

初日の29日には、瑤子女王殿下が
ご臨席された。また、連日、国内外か
ら多くの観客が訪れ、各国の選手の
活躍に会場内が歓声と拍手で包まれ
た。最終日の31日は、9386名の
観客が日本武道館を埋めつくした。

男子個人戦決勝 網代忠勝対竹ノ内佑也



網代（右）の小手が決まった瞬間。網代が初の世界王者となった

男子個人戦

《個人戦》

試合は、全て国際剣道連盟試合・審判規程により行い、予選および決勝トーナメントとも、男子は時間5分間による3本勝負、女子は4分間による3本勝負。時間内に決しない場合は、時間無制限の一本勝負によって争われた。

▽男子個人戦

男子個人戦には、世界55カ国から21名の選手が出場した。日本男子は、網代忠勝（錬士六段）、竹ノ内佑也（四段）、西村英久（五段）、村瀬諒（四段）の4名で戦った。

観客は決勝戦の行方を回睡を飲んで見守る姿





熱戦を繰り広げ決勝戦まで勝ち進んだ竹ノ内（左）



西村（右）の面が、マカオのチェンに決まる



村瀬（左）は、対格差のあるオランダのV・D・W・マコト（右）に勝利

■決勝、網代忠勝対竹ノ内佑也

決勝戦は、お互いに手の内を知り尽くした日本代表選手同士、網代忠勝と昨年の全日本剣道選手権王者の竹ノ内佑也の対戦となった。鏝（つぼせ）迫り合いから間合を取り、竹ノ内が網代の胴を打つが決まらない。互いに攻め合うも両者決めきれず、延長戦にもつれ込んだ。延長戦開始後、両者

が間合を詰めると、竹ノ内の手元が上がった。網代は勢いよく小手を打ち込むと、旗が3本上がり、勝負あり。網代の初優勝、世界一が決まった。同時に、第1回大会からの日本選手16連覇を更新。

■その他男子個人戦日本代表結果

◇西村英久Ⅱ3位

順調に勝ち上がった西村は、準決勝で竹ノ内佑也と対戦。日本代表同士の対決となった。試合序盤、西村は竹ノ内から小手を奪い先制したものの、竹ノ内に面を決められ星を奪われる。西村は連続で攻められ星を奪われ、準決勝敗退。西村は3位入賞。

◇村瀬諒Ⅱ準々決勝敗退

準々決勝にあがった村瀬は、韓国のチャン・マノクと対戦。互いに声を張り上げる。一步も譲らない展開から先制したのはチャン。素早い面を繰り出し、村瀬に一本を決める。鏝迫り合いになると体格差のあるチャンのパワーに、村瀬の竹刀がふられる。竹刀の調整が入り、試合が再



男子個人戦出場者



男子個人戦優勝Ⅱ 網代忠勝

開されると激しい攻防が始まる。この打ち合いを制したのはまたもチャーン。村瀬に二本目の面を決めると、村瀬の準々決勝敗退が決まった。

男子個人戦選手コメント

◎優勝Ⅱ網代忠勝選手

「世界一になった実感はわかりませんが、正直ほっとしています。今回は日本開催で応援が凄かったです。相手だけに集中して試合に臨み、日本選手にあたるまでは、責任を果すためにと戦いました。決勝戦で戦った竹ノ内選手は、勢いがあり強いので

す。今後も挑戦するつもりでいきます」

◎準優勝Ⅱ竹ノ内佑也選手

「満足です。優勝しなかったのはあるんですが、決勝までいって網代先輩に負けたことに後悔はないです。最高の結果だったと思います。今後は最後まで勝ちに繋げられるような集中力や体力を養っていきたいです。明後日の団体戦では、今日の負けの分をしっかりと取り返して優勝を目指します。また、次の大会に向けて個人でも世界一になれるよう頑張っていきたいです」

女子個人戦決勝 松本弥月対ホ・ユニヨン



女子個人戦決勝を制した松本（右）は世界の頂点に立つ

女子個人戦

▽女子個人戦

世界48カ国から154名が参加。日本代表女子は、松本弥月（四段）、鷹見由紀子（五段）、川越愛（五段）、田山秋恵（五段）の4名で戦った。

■決勝、松本弥月対ホ・ユニヨン

予選から決勝まですべて二本勝ちで勝ち進んだ松本。決勝戦の相手は、前回大会敢闘選手の韓国ホ・ユニヨン。

開始早々、両者が激しく打ち合う展開。中盤、両者がぶつかり合い、脚が絡まって松本が転倒。鏑迫り合いでは、ホは松本の引き技を警戒する。松本が鏑迫り合いを止めようと後ろに下がっても、ホは松本から離れようとしなかつたので、ホは反則をとられる。延長戦に入り、鏑迫り合いから松本は鋭い引き面を決め、接戦を制し、初優勝を収めた。女子種目が導入された第11回大会からの日本選手5連覇を達成。

■その他女子個人戦日本代表結果

鷹見由紀子Ⅱ3位
予選はすべて二本勝ち。決勝トーナメントでは、延長の末に一本勝ちで粘り強さを見せた鷹見。準決勝の相手は、韓国のホ・ユニヨン。両者一歩も譲らない展開が続く、審議が入る。結果、両者に反則が一つずつ下る。その後も膠着状態が続く、勝敗は延長戦へと持ち越された。ホは、一瞬の隙を突いて鷹見から小手を奪う。前々回個人戦を制した鷹見は、一本負けで準決勝敗退が決まり、3位となった。

川越愛Ⅱ準決勝敗退
予選では、二本勝ち。決勝トーナメントに入ってから、一本勝ちで辛勝してきた川越。準々決勝で、韓国ウォン・ポギョンと対戦。ウォンが、早々に小手を決め先制するが、負けじと川越が引き胴を決める。追いつめられた川越、手元が浮いた瞬間を逃さなかつたウォンは、すかさず小手を決める。前回3位の川越は準決勝を前に敗退した。



優勝を分かち合う女子個人戦出場者たち

◇田山秋恵 3回戦敗退

決勝トーナメントへと駒を進めた田山。3回戦の相手は韓国のホ・ユニョン。延長戦まで鎧を削り合ったが、ホの小手が決まる。この一本で昨年の全日本女子選手権大会王者が早々に姿を消した。

女子個人戦選手コメント

◎優勝 松本弥月選手



「世界大会で、日本の伝統文化、剣道の歴史を変えるわけにはいかない、負けるわけにはいかなさと思ひ、挑みました。今は警察学校に入り、新しい環境で十分な練習時間がとれ、ぶらくなりましたが、宮崎先生をはじめ、周りの理解・協力があり、稽古のできる環境を作ってもらっています。練習時間が短い分、一本一本集中し、練習しています」



鷹見(左)の鋭い面が、ドイツのツヤスズ(右)に決まる



川越(右)は、アメリカのクリスティン(左)に面を二本決めて快勝

女子団体戦決勝 日本対韓国



女子団体戦決勝戦。副将の山本（右）は日本を優勝に導いた

女子団体戦

《団体戦》

試合は、全て国際剣道連盟試合・審判規程により行い、男女とも5人制により勝敗を決した。試合毎の出場選手は団体選手権出場選手の中から選ばれ、その編成は試合の都度変更可能。予選および決勝トーナメントとも、男子は時間5分間による3本勝負、女子は4分間による3本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は引分けとして争われた。

▽女子団体戦

参加国数は34カ国。前回大会の成績により、日本、韓国、ドイツ、ブラジルがシード権を獲得した。

日本女子は、佐久間陽子（五段）、吉田佳世（五段）、黒河香菜（五段）、山本真理子（五段）、松本弥月（四段）、渡邊タイ（四段）、高橋萌子（四段）の7名で戦った。

日本は、予選リーグでフランス、チリ、決勝トーナメントではベルギー、シンガポール、準決勝のアメリカ戦まで4試合すべてで編成を入れ

替え、さらに全試合5―0で勝利。

一方、日本の最大のライバルであり、個人戦でも苦戦を強いられた韓国は、予選リーグから準決勝のブラジル戦まで負け数0で、他チームを圧倒する試合展開を見せて決勝進出を決めた。

■決勝戦 日本対韓国

【先鋒戦】 鏑迫り合いから佐久間がチョン・スナに引き面で一本勝ち。

【次鋒戦】 高橋は飛び込み面を放つが、ホ・ユニョンに返し胴を決められ先制される。この流れを断ち切るかのように、すかさず高橋がお返しとばかりに小手、胴と打ち込み、胴を決めた。その後も、互いに攻め続けたが、引分けに終わった。

【中堅戦】 渡邊とチャン・ミンジ。互いに打ち合ったが両者一步も譲らず引分け。勝敗は副将戦まで持ち越された。

【副将戦】 勝負のかかる副将戦、山本対ウォン・ポギョン。間合を詰めて積極的に打ち合う両者。試合終



先鋒戦、幸先よく佐久間(右)が面で攻める



次鋒戦、高橋(右)が胴を決める



日本代表女子選手団・監督コーチ・役員

盤、山本が先に間合を詰めると、ウォンは飛び込み面を放った。山本は狙い澄ましたかのようにウォンの出ばなを小手でとらえ、一本を奪った。その後、ウォンも必死に技を繰り出したが、時間となり山本が一本勝ちを収めた。この時点で日本の優勝が確定。山本が大舞台で大仕事を果たした。

【大将戦】大将の松本は、開始早々、キム・スンヒに小手を決め、一本勝ちで勝利。
結果、日本が3-0で優勝。大会

5連覇を達成した。

◎宮崎正裕全日本女子監督

「団体戦において満足はしておりません。全体的に振り返れば、個人戦の方で結果を出せなかった選手がいることは責任を感じています」

◎山本真理子選手Ⅱ副将

「最後はここで決めたいと思っただとところで決められました。決勝では、相手の背が高く、面が遠くから飛んでくるので気をつけました。ま

っすぐ面が飛んでくるので、そこを狙い二本目の小手を狙いました。個人戦で優勝した松本選手が後ろにいてくれてすごく心強かったです」

◎高橋萌子選手Ⅱ次鋒

「試合終盤、相手は一本とっているので、自分が攻めたら相手が守りに入り、手元が上がると思いました。そこで、思い切り胴を狙ったら、ちょうど手元上がり、胴を決められました。最後まで自分の気持ちは切れませんでした」

男子団体戦決勝 日本対韓国



男子団体戦決勝戦。中堅の正代（右）が二本目の小手を決め、日本の優勝を大きく引き寄せた

男子団体戦

▽男子団体選手権

参加国数は52カ国。

日本男子代表は、内村良一（錬士六段）、正代正博（六段）、升田良（五段）、勝見洋介（五段）、安藤翔（四段）、竹ノ内佑也（四段）、山田凌平（三段）の計7名で構成された。

団体戦1試合目に早くも日本が登場し、カナダと対戦。先鋒戦、竹ノ内が二本勝ちで幸先の良いスタートを切る。2試合目のスウェーデン戦は、次鋒として明治大学1年生の山田が登場。一本勝ちで代表デビューを飾る。さらに、ノルウェーに勝利し、3勝をあげた日本は決勝トーナメント進出。

1回戦ではハワイ、準々決勝はブラジルと対戦。準決勝では、ハンガリーから敗者を一人も出すことなく、危なげない試合展開を見せる。

ベスト4は、前回大会と同じ顔並び。対戦カードは、日本対ハンガリー、アメリカ対韓国。奇しくも対戦カードも前回同様となった。日本は

ハンガリーに5-0の完勝。アメリカ対韓国は、先鋒戦、大将戦で二本勝ちした韓国が2-0で制した。

■決勝戦 日本対韓国

試合前に円陣を組み、内村から「オー！」の掛け声がかかると、皆がそれに呼応して気合いを入れる。

【先鋒戦】膠着状態が続いたが、竹ノ内がチャン・マノクから小手返し面を奪い、一本勝ち。

【次鋒戦】小柄な勝見に対し、体格で勝るチョ・ジニョン。近い間合からの面を二本決められ、日本は負けを喫した。

【中堅戦】正代対パク・ビョンフン。正代は一瞬の隙をついて、飛び込み小手で先制。二本目の開始直後、正代は再び小手を打ち込み、小手を決めて勝利。勝負強さを見せた。

【副将戦】安藤対ユ・ジェミン。安藤は、今大会でこれまで副将、大将として出場し、全勝。しかし、この決勝では苦戦。安藤が反則を取られると、その後もせめぎ合いが続き、



副将戦、安藤（右）は最後まで粘り強く戦って引分け



大将の内村（左）は防守巧みに戦った

再び反則がとられそうな危うい場面も。両者は力強い打突で攻め続けたが、時間切れとなり引分け。

【大将戦】日本リードで迎えた大将戦、大将は世界剣道選手権優勝経験者の内村。対する相手の大将は、内村よりも上背のイ・ガンホ。内村は、先に間合を詰め、イに有効打を出させない。そのまま拮抗した時間が続いた。

試合巧者の内村は引分けに持ち込み、結果、2-1で日本が頂点に立

った。同時に、日本の大会3連覇が決まった。好成績を残した安藤は敢闘選手として表彰された。

◎石田利也全日本男子監督

「内村は、最後に大きな仕事をしてくれました。武道館での戦いを一番良く知っているのが彼です。決勝では、鏑迫り合いで押されていて難しい場面が多かったです。反則をとられたりもして、逆にそこが勝負の分かれ目になりました。皆よく戦った

と思います」

◎内村良一選手II大将

「団体戦では若手の役割、私や網代のようなベテランの役割があると思います。最後は若手に支えてもらいました。国の代表として戦う重み、責任と戦いながらみんないい状態で来れたと思います。これで代表を退くことになると思いますが、まだまだ課題があり、勉強しなければなりません」

◎正代正博選手II中堅

「試合中は頭が真っ白でした。ただ気持ちに乗っていたから小手を決められたと思います」



日本代表男子選手団・監督以下・役員

【大会結果】

▼男子個人戦

① 網代忠勝（日本）② 竹ノ内佑也（日本）③ 西村英久（日本）、チャン・マノク（韓国）

▼女子個人戦

① 松本弥月（日本）② ホ・ユニョン（韓国）③ 鷹見由紀子（日本）、ウオン・ポギョン（韓国）

▼女子団体戦

① 日本② 韓国③ アメリカ合衆国、ブラジル

▼男子団体戦

① 日本② 韓国③ ハンガリー、アメリカ合衆国

日本剣道形



打太刀・岩立三郎範士（左）
仕太刀・加藤浩二範士（右）

居合道演武



河回俊彦範士



迫野康雄範士



三谷昭雄範士

杖道



打・釣賀敏郎教士八段（左）

仕・藤崎興朗教士八段（右）

【大会エピソード】

本大会開催に伴い、世界に向けた剣道普及事業の一環として、全日本武道具協同組合による剣道具の無償修理が行われた。この活動は、組合所属の材料取扱店から無償で材料提供を受け、製造職人がボランティアで修理を行うことで成り立っている。組合理事長の松本孝仁氏は活動を次のように語った。

「持ち込まれた海外選手の剣道具の多くが、買い替えをしてもおかしくないほどボロボロでした。彼らが剣道具をどれだけ大事に長年扱ってきたかよくわかります。材料不足や職人不足が問題でしょう。」

特に多かった修理は、安全顎と（小手の）手の内の張り替えです。安全顎は突きの練習が多い海外選手には必要不可欠なものです。

修理依頼のあった剣道具は、一日あたり50本。多い日は150本もありました。この活動はこれからも継続する必要があります」

手の内の材料費は、通常一個あたり6000円かかる。海外選手は、愛用の剣道具が修理から戻ってくると、皆一様に笑顔を見せた。

心技体 人を育てる総合誌
月刊 **武道**

海外選手インタビュー



ロシア連邦
G. アレクサンドル選手

「剣道歴は17年。日本武道館は武道の聖地で、ここに来ることが夢でした。数年前、NHKのドキュメンタリーで、八段審査会の様子を見ました。そこに80歳近い宮本海範士が参加されていたのが印象的でした。剣道の魅力は、宮本先生のように何歳になっても続けられ、常に向上することができるところにあると思います。今後の目標は、剣道を通じて心の平安を保つことです」



オランダ
V. D. W. サヨ選手

「剣道歴は16年。世界選手権大会は、まさに交剣知愛の場です。いろんなレベルの国があり、勝負できるのが楽しいです。剣道は健康的なだ

けでなく、人間形成の道でもあるので魅力を感じました。身体的にも、精神的にも成長させてくれました」



スイス
K. メリッサ選手

「剣道歴は10年。日本武道館で剣道ができることをとても楽しみにしていました。剣道を始めたきっかけは、マンガの『るろうに剣心』です。剣道はストレス発散にもなるし、人生において困難なことを乗り越えるための姿勢や判断力を養ってくれます。目標は、死ぬまで剣道が続けることです」



インドネシア
T. パンドウ選手

「剣道歴は13年。武道の聖地で、剣道ができることをとても幸せに感じます。剣道は日本の文化であり、魂を感じるのでも好きです」



第三駐車場の特設テントで、選手たちは稽古に汗を流した



二刀流の選手も多く出場



真剣な眼差しでチームメイトを見守る各国の選手

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供：剣道時代)

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

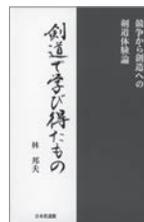


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)

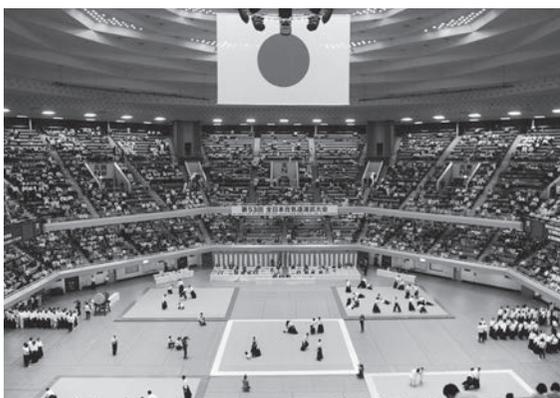


植芝守央合気道道主による総合演武

第53回全日本合気道演武大会

花開く合気道の大輪

国内外から演武者7800名が参集



第53回全日本合気道演武大会は5月23日、日本武道館で開催された。大会には、植芝守中央合気道道主ほか合気道本部道場指導部師範、指導員、全国各地や海外支部などから集まった修業者、約7800名が出演し、激しくも美しい演武を披露した。

当日は天候に恵まれ、初夏を感じさせる陽気となったが、そうした暑さにもかかわらず、開場を今か今かと待つ多くの観客が列をなした。午前11時に開場すると、一斉に館内に傾れ込んであつという間に客席が埋まり、大会への期待と合気道の人気の高さを窺わせた。

大会は正午に開会。可児晋合気会理事が開会の辞を述べた後、植芝守中央合気道道主が主催者を代表して挨拶に立った。

「本大会は合気会最大の行事であり、海外も含めて全国から7800名の方々が一堂に会し演武をされます。開祖植芝盛平翁が創始した合気道は、二代吉祥丸道主を中心とした先達の方々の普及振興、また、皆様方のお力添えにより世界130カ国にま

で大きく広がっております。今日の合気道の大きな輪が出来上がったのは、演武大会を実施し、充実させてきたことが一つの大きな要因です。この流れを大切にし、私どもは先達への感謝の気持ちを忘れずに、正しく良い形で合気道を後世に伝えていくことが責務だと思っております」

続いて、松永光日本武道館会長が「関係の方々の大変な努力により、世界で合気道に励む人が増えており、誠に喜ばしいことです。本日は皆様の日頃鍛えている合気道の心と身体を存分に発揮して立派な大会になるよう頑張ってくださいと思います」と祝辞を述べた。その後も、山谷えり子参議院議員、奥田幹生日本武道館常任理事、島村宣伸日本武道館常任理事が挨拶を行った。

開会式が終わると、学生連盟演武の関東学生合気道連盟から順に演武がスタート。演武者は5つの演武場で、規定時間である1分30秒の間に日頃鍛えた技を披露した。第1部の最後には植芝充中央本部道場長が迫力ある自由演武を行い、前半を締め括った。

第2部の始まりは、第1部と同様に学生連盟演武から始まり、高校生、中学生と若さ溢れる演武が行われる。途中、海外から参加した熱心な団体の演武もあり、合気道の国際的な広がりを感じさせた。

終盤には本部道場少年部による元気一杯の演武があり、その後は本部道場一般部、師範演武、自由演武と続く。自由演武のトリを務めるのは本部師範の多田宏九段。多田師範は85歳になってもなお、矍鑠とした動きから淀みなく技を繰り出し、その熟達の技は観客を大いに魅了した。

そして、大会全体の締め括りに植芝守中央合気道道主が演武場に姿を現すと、場内の照明が一際明るくなり、観客の期待も最高潮に高まる。道主は立ち技、座り技、半身半立ち技、太刀取り、杖取り、多人数掛けを披露し、演武を終えると、観客からはこの日一番の拍手が送られた。

閉会の辞では古藤舞司合気会常務理事が「来年も日本武道館で元氣にお会いしましょう」と1年後の再会を約し、大会は盛会裏に幕を閉じた。

本部道場指導部師範演武



横田愛明本部道場指導部師範



小林幸光本部道場指導部師範



菅原繁本部道場指導部師範



藤巻宏本部道場指導部師範



植芝充央本部道場長



入江嘉信本部道場指導部師範



佐々木貞樹本部道場指導部師範



桂田英路本部道場指導部師範



鳥海幸一本部道場指導部師範



栗林孝典本部道場指導部師範



遠藤征四郎本部道場指導部師範



多田宏本部師範

練り上げられた 技の共演



安野正敏本部道場指導部師範



櫻井寛幸本部道場指導部師範



関昭二本部道場指導部師範



難波弘之本部道場指導部師範



金沢威本部道場指導部師範



窪田育弘奈良合気会師範



小林保雄合気道小林道場総師範



嶋本勝行合気道豊中正泉寺道場長



岡本洋子合気道京都師範

師範演武 秘奥の技を披露



菅沼守人合気道祥平塾道場長

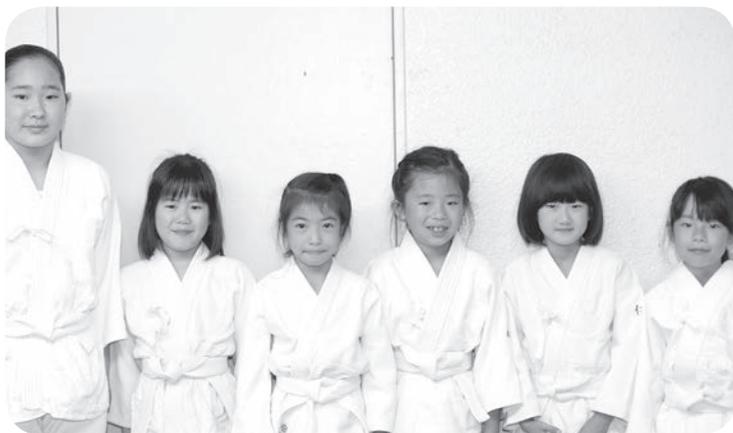


木村二郎合気道大阪武育会師範



竹中日出雄竹豊館師範

小さな合気道家たち



参加者コメント



緊張の面持ちで演武を行う高橋祥悟君（右）。演武が終わってニッコリ



◎千葉市立椿森中学校Ⅱ高橋祥悟君
 「中学生として出場する最後の大会で不安もあったんですけど、終わってみて自分の演武に満足できたので良かったです。小学生の時には空手をやっていて武道に関心があったので、中学校では合気道を始めました。合気道は勝ち負けを競わず、受けを取る人も取りをやる人もお互いに磨き合えるところが良い部分です。高校に進学しても続けたいと思っています」



峠和男さん

◎合気道花見川道場Ⅱ峠和男さん
 「合気道は同じ会社の友人から誘われて始めました。始めて2年足らずですけど、演武会は緊張しました。昨年もお出しして、去年より、うまくやろうとしたのですが、まだまだですね。合気道は個人で行うトレーニングと違って、2人で一緒に稽古できるところが魅力です」



【演武者一覧】

■第一部

- 1 学生連盟演武 関東
- 2 指導部師範演武 桂田英路、難波弘之、伊藤眞、佐々木貞樹
- 3 師範演武 横田愛明、小林幸光、菅原繁
- 4 道場演武 絨武館道場合気道部、合気道目黒道場、合気道等々力道場、合気道練馬総合体育館道場、合気道自由が丘道場、合気道土井道場、新小岩合気道、兼守道場、東村山市合気道会、日高市合気道同好会、合気道小田原相模原教室、合気道小金井同好会、奥多摩合気道会、合気道修練道場自然館、倉武合気道、東大和市合気道会、渋谷合気道同好会、三鷹市合気道連盟、荒川合気会、谷合気道連盟、仲池合気道同好会、葛飾合気会、荻窪合気道同好会、合気道藤澤道場、千葉合気道会、町田合気会、合気道正心会、合気道清明塾、千葉合気道館、深谷合気会、船橋合気道会、合気道健武館、A&P合気道石垣道場、長野至水会、大宮合気道俱樂部
- 5 学生演武 学生連盟外1、学生連盟外II、学生連盟演武
- 6 道場演武 世田谷大原合気会、草加合気道研究会、合気道鈴木道場、合気道相模和道会、合気道鹿沼教室、合気道浦田塾、武蔵小杉合気道会、我孫子合気会、守清館、幸優気会、鶴岡八幡宮修道場合気道科、新郷合気会、新所沢合気道同好会、合気道弘能会明心館道場、小田原合気会、合気道大河原教室、合気道誠氣会、合気道盛岡道場、合気道青葉塾道場、城東誠和会、合気道幸徳会、合気道野比道場、大田区合気道会、川崎向ヶ丘古館合気道道場、横浜南合気会、緑水会、央合気道守道場、合気道麻生同好会、月窓寺道場、旭合気道クラブ、大和合気道クラブ、名古屋合気会、合気道吹上道場、尾張合気会、名古屋道場、岡崎合気道皇道館道場、兵庫合気会姫路道場、白光真実会合気道場、岡山合気道交流会、合気道四郎会
- 7 指導者演武 小宮山晃弘(新潟県)、小林孝生(秋田県)、三宅智志(福島県)、鈴木遼(愛知県)、永山春葉(兵庫県)
- 8 指導者演武 森本忠則(岡山県)、宮根豊和(和歌山県)、亀川美佳(群馬県)、山本俊介(滋賀県)、高田達也(北海道)
- 9 自由演武 嶋本勝行、工藤泰助
- 10 道場演武 桜台合気道クラブ、葉山町合気会、合気道研究会インターナショナル、合気道凱風館、合

- 合気道春水道場、大阪合気塾、奈良合気会、合気道大阪武会、合気道大阪道友会、和氣會、合気道浦川合気会、合気道京都、合気道研心会、南海合気道、和合館合気道修練道場、野田合気会、湘南台合気道クラブ、寒川合気会、藤沢合気道俱樂部、柏合気会、相模合気道連盟、綾瀬市、海老名市合気会、郡山合気会、石田塾、合気道白河道場、西川口合気道クラブ、合気道研修合気道道場、合気道花見川道場、目黒区合気道連盟、合気道石志塾グループ、文京区合気会、佐倉合気会、宇宙の会、ひたちなか合気会、相生會、浦和尾間木合気会、広島合気会、大成合気道会、合気道唯心館杉野道場、船橋市合気道連盟、合気道越谷道場、城合気道クラブ、合気道新川塾、わかしおスポーツクラブ、合気道小嶋会
- 11 社会人団体演武 国際協力機構合気道部、東京消防庁合気道部、経済産業省合気道部、松戸市役所合気道部、稲門合気俱樂部、法務省合気道部、朝日合気会、東京テック合気道部、国立印刷局合気道部、富士フィルムテクノプロダクツ合気道部、富士通合気道部、ソニー合気会、国会合気会、広島市役所合気道部、三井住友銀行合気道部、N.T.T.東日本東京合気道部、宏心会、NHK合気道部、合気道臥龍会、志念会、第三共合気道部、I.H.I.合気会、品川区合気道交友会、城南合気会、奈良合気会福原市役所合気道部
- 12 連盟演武 茨城県合気道連盟(阿見、曙、つくば、修練会、石岡、湖沼、笠間市体協、取手、水戸、かずみがうら、上浦つくば、百里)、新潟県合気道連盟、北海道合気道連盟(岩見沢合気道会、合気道札幌研武会)、愛媛県合気道連盟、和歌山県合気道連盟、愛知県合気道連盟、合気道兵庫連盟、奈良県合気道連盟、山口県合気道連盟、大阪府合気道連盟、群馬県合気道連盟、神奈川県合気道連盟、高知県合気道連盟、東北合気道連盟(宮城県、福島県、秋田県、山形県、青森県、岩手県)
- 13 指導者演武 池浦麻未(愛媛県)、夏坂昭博(山梨県)、菅野寿人(山形県)、澁谷吉郎(埼玉県)、布施聡(栃木県)
- 14 指導者演武 米田圭一郎(奈良県)、西井なおみ(静岡県)、宮尾聡一(東京都)、高坂修一(青森県)、広田倫久(大阪府)
- 15 茨城支部道場指導部指導員演武 磯山俊博、永島義道、平澤憲次、秋本英裕、川上俊明
- 16 師範演武 木村二郎、船越光雄、本澤俊三
- 17 防衛省合気道連合会演武(稽古法)、防衛省合気道

- 連合会
- 18 合気道学校演武 初級課程、中級課程、上級課程
- 19 指導部指導員演武(基本技抑え) 内田直人、日野晴正、徳田雅也
- 20 指導部指導員演武(基本技投げ) 鈴木俊雄、小谷佑一、小山雄二
- 21 指導部師範演武 藤巻宏、入江嘉信、森智洋、桜井寛幸
- 22 師範演武 鳥海幸一、栗林孝典、金沢成
- 23 自由演武 植芝充央
- 第二部
- 1 学生連盟演武(関西中部、中四国、北海道、東北)
- 2 高等学校連盟演武 全国高等学校連盟
- 3 中学生演武 武蔵中学校、世田谷区立緑ヶ丘中学校、頼明館中学校、城西大附属城西中学校、千葉市立椿森中学校、田園調布雙葉学園中学校、倉敷市立西中学校
- 4 文化センター演武 日本武道館武道学園、東急セミナーBエニ子玉川、朝日カルチャー(立川)、NHK文化センター、成増ロンドフイットネススタジオ
- 5 合気道道場 合気道銀座養生会、よみうりカルチャー(北千住)、八王子、横浜、大森、川口、京葉、恵比寿、大宮、錦糸町、自由が丘、町田、川崎、和歌山)、えきスポ梅島、麹町合気会、カルチャー合気道教室、華楽会、大泉合気道同好会
- 5 海外道場演武 リトアニア・キルギス、ロシア、ポーランド、ミャンマー、韓国、アメリカ
- 6 指導者演武 櫻田広司(茨城県、大上勝彦(広島県)、古川了平(京都府)、小谷達也(宮崎県、藏本義満(山口県))
- 7 指導者演武 倉田久三(三重県、渡邊新(宮城県)、池田忠道(神奈川県、小川栄一(千葉県、河野義則(香川県))
- 8 自由演武 高本和直、竹中日出雄
- 9 道場演武 入間幸武館道場、秩父合気道進修館、浦和合気会、川口芝合気会、合気道川越道場、祖師谷合気会、大塚道場明道館、佐久合気道会、府中合気会、平塚合気会、栗合気塾塩尻道場、合気道桜道場、合気道大宮道場、合気道心合会、富山合気会、神戸せいぶ館、蓮田合気会、明清会グループ、白合気会船橋道場、立川市合気道会、久喜合気道同好会、北総合気会、新宿スポーツセンター合気道教室、江東区合気会、双峰合気道会、小林道場(北海道、富山、京都、国際部、東京、福恋、神奈川、埼玉、宮崎、福島、新宿合気会、中央区合気道会、中野

- 区合気道会、港区合気会、千代田区合気会、八千代市合気道連盟、北区合気道会、調布合気道会、江戸川区合気道連盟、板橋区合気道連盟
- 10 師範演武 横山清一、日高浩、渡引好文
- 11 社会人団体演武 みずほ証券合気道部、株式会社廣済堂合気道部、日経合気道クラブ、シビル合気道部、村松楽器合気道俱樂部、東京税理士会麻布支部合気道部、裁判所合気道部、三菱合気道部、公認会計士合気道同好会、理双会、横河電機同好会合気道部、明治大学教職員合気道俱樂部、東芝合気道部、富士通津工場合気道部、川崎市役所合気道部
- 12 道場演武 合気道入江道場、玉禪寺合気道場、小牧合気会、合気道れいめい合気会、合気道横須賀、小合気会、市原合気会、蔵合気道会、武蔵村山合気道会、江戸崎合気会、池袋合気道同好会、戸田市スポーツセンター合気道教室、つくば牛久合気道会、青山会、鎌ヶ谷合気会、合気道吾勝会、合気道自灯館道場、西新宿合気会、合気道辻堂道場、横浜国際合気道会、甲府合気会、合気道正武会、一宮合気会、京行徳館道場、沼津合気会、合気道相模原道場、京都越谷合気会、合気道二瀬塾、京都近江合気会、合気道堀越道場、相模原武澤塾、東京合気道秀和会、志本合気会、多摩合気会、N.P.O.法人相模原市合気道連盟、浜風合気会、大阪合気会、小俣合気道会、青雲塾、合気道奥州道場、流山合気道同好会、流山合気会、合気道ふれあい塾、袖ヶ浦合気会、合気道岐阜一元会、合気道明倫塾、裾野合気会、合気道氣流会
- 13 本部道場少年部演武(稽古法) 本部道場少年部
- 14 本部道場一般演武(稽古法) 本部道場一般I、II、III、IV、V
- 15 師範演武 大和利幸正、石田偉、工藤孝宣、岡本洋子
- 16 師範演武 堀井悦二、鈴木順子、野村直美
- 17 師範演武 山田勝敏、堀越春芳、追分拓哉
- 18 自由演武 山田博信、和田昭
- 19 自由演武 安野正敏、関昭二
- 20 自由演武 菅沼守人、窪田有弘
- 21 自由演武 小林保雄、遠藤征四郎
- 22 自由演武 多田宏

○総合演武 合気道道主・植芝守央

最新刊

漫画家・
別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

マンガ・武道の偉人たち

田代しんたろう



日本武道館

B5判・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鷗沢尚信(銃剣道)

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



全日本高齢者武道大会

剣道・内閣総理大臣賞争奪戦＝宮崎（左）が攻める

宮崎克己⁸⁶が 内閣総理大臣賞に輝く

第37回全日本高齢者武道大会（主催Ⅱ全国老人福祉助成会）は6月8日、日本武道館で行われた。

最高齢は93歳、88歳以上の剣士も21名。矍鑠とした高齢剣士687名が、北は北海道から南は沖縄まで全国から集まり、熱のこもった剣道・銃剣道の試合を繰り広げた。

午前9時より開会式となり、国歌斉唱に続いて、前回から今回にかけて、1年間に亡くなった剣士の冥福を祈り、黙禱が捧げられた。

次に成元善一大会会長が主催者挨拶、岩立三郎全日本高齢剣友会会長が祝辞を述べ、来賓祝辞、功労者顕彰、審判長挨拶と続き、最後に田中満朗選手（北海道）が堂々と選手宣誓を行った。

開会式終了後、剣道、居合道、銃剣道の模範演武が行われ、その後、大道場に設けられた13の会場に分かれて、試合が行われた。

剣道では、寿A組（85歳以上）で宮崎克己（福岡）が力強い面を決め、優勝を果たした。

寿A組の優勝者である宮崎と、寿B組（80～84歳）優勝者の鈴木登（静



剣道。女性個人戦決勝Ⅱ坂田（左）が攻める



剣道。寿A組決勝Ⅲ宮崎（右）が面を決める



開会式



銃剣道。A組決勝Ⅲ寺田（左）が上脰を決める

岡）とで内閣総理大臣賞争奪戦が行われ、宮崎が鈴木のスキを見事について面を決め、内閣総理大臣賞を獲得した。剣道男性団体戦は神奈川県が2年連続の優勝。女性個人戦は、坂田文子（東京）が優勝を勝ち取った。女性団体戦は岩手県が制した。銃剣道A組（75歳以上）は、寺田信二（愛知）が上脰を決め、2年ぶりの優勝を果たした。銃剣道団体戦は、同じく寺田が大将を務めた愛知県が、3年ぶりの優勝を決めた。

◎剣道内閣総理大臣賞・寿A組優勝Ⅱ
宮崎克己選手（福岡・86歳）



「膝が悪く、この1年間はあまり練習が思うようにできない中、この大会で5回目の優勝、さらには内閣総理大臣賞となり、非常に嬉しいです。普段は週に2回、子供と稽古していましたが、膝を悪くしてから、しばらくの間、休んでおりました。優勝できたのは、子供たちの協力や周囲の応援のおかげです。来年も元気だったら、また参加し、皆さんとお会いしたいですね」

さらに身体が動かなくなると思いますが、次大会も頑張ります」



◎銃剣道団体戦・銃剣道A組優勝Ⅱ
寺田信二選手（愛知・78歳）

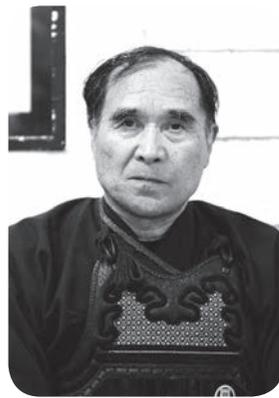


「団体戦では、3年ぶりの優勝となりました。今大会では、自分も大将の責任を果たすことができましたが、皆がそれぞれ助け合いながらの勝ち上がりでした。そのこともあり、さらに嬉しいのです。来年はもつと練習を重ね、安定した試合展開にし、連勝を目指したいです。個人戦では、去年は3位でした

が、今年は不思議と身体が動き、優勝することができました。この良好な健康状態を維持できている原因の一つに、普段の高校生への指導があるのかも知れません。気力を出し、初心者的高校生を相手に稽古することが、自分の身体へ良い影響を与えているのだと思います。優勝できたのは、ある意味で、高校生たちのおかげかも知れません」

◎銃剣道B組優勝Ⅱ

小出秋夫選手（静岡・71歳）



「こしばらく決勝まではいきませんが、勝ちに恵まれず、準優勝に終わっていました。4年ぶりの優勝となり、本当に嬉しいです。普段は、1週間に2回程度、小学校の体育館を借り、仕事が終わってから約1時間の練習をしています。今後、身体が元気な限り参加したいですね」

◎銃剣道C組優勝Ⅱ
相野照昭選手（青森・58歳）



「正直、優勝できて嬉しいです。その一言に尽きます。去年は決勝で敗れました。今年は、ここ日本武道館で、もう一度優勝しようと思いい、1年間練習してきました。その結果をこうして示すことができました。昨年、団体戦は決勝で敗れ、今年は、諸事情により団体戦の出場は叶わず、悔しい思いをしました。来年は皆で団体戦も出場し、優勝を目指して戦いたいです」

◎剣道女性個人戦優勝Ⅱ

坂田文子選手（東京・68歳）

「このところ、あまり勝てませんでした。前回優勝することができ、嬉しいです。団体戦では一本も取れませんでした。個人戦では身体が動きました。来年は、今年より





剣道女性団体優勝＝岩手



剣道男性団体優勝＝神奈川（前列は神奈川県女性入賞者）



1年ぶりの再会で話が弾む



銃剣道団体優勝＝愛知

大会結果

	組名	優勝		準優勝	3位
剣道	寿A (85歳以上)	内閣総理大臣賞 宮崎 克己 (福岡)	宮崎 克己 (福岡)	草野吉四郎 (福島)	渡辺 秀雄 (茨城) 佐竹 良照 (大阪)
	寿B (80歳～84歳)		鈴木 登 (静岡)	伊藤 充男 (千葉)	橋本 保治 (東京) 三上 孔 (神奈川)
	特 (75歳～79歳)	上北 鞠也 (愛知)		滝澤 昌史 (東京)	渡辺 孝 (栃木) 川下 紘生 (埼玉)
	A (70歳～74歳)	川村 博昭 (愛媛)		渡辺 秀男 (埼玉)	青山 勲 (新潟) 小川 博孝 (埼玉)
	B (65歳～69歳)	荻原 正夫 (東京)		櫻中 正志 (埼玉)	沖田 康宏 (東京) 松元 正信 (愛知)
	C (55歳～64歳)	岩男 泰明 (福岡)		堀越 俊行 (茨城)	小川 亜土 (神奈川) 長谷川 恵一 (三重)
	男性団体	神奈川県		北海道	広島県 東京都
	女性個人戦	坂田 文子 (東京)		森 泰子 (神奈川)	坂入 修子 (神奈川) 小谷 洋子 (長野)
	女性団体	岩手県		神奈川県	東京都 北海道
銃剣道	A (75歳以上)	寺田 信二 (愛知)		加藤 文雄 (宮城)	山野井一男 (千葉) 渡辺 正三 (茨城)
	B (65歳～74歳)	小出 秋夫 (静岡)		寺阪 清仁 (愛知)	山田 道夫 (栃木) 安西 隆仁 (千葉)
	C (55歳～64歳)	相野 照昭 (青森)		田原 一晃 (北海道)	神谷 好美 (愛知) 園部 勝久 (群馬)
	基本技 (55歳以上)	神谷 好美 (愛知)		山田 道夫 (栃木)	福地 正義 (静岡) 寺田 信之 (長野)
	団体	愛知県		群馬県	東京都 新潟県

好評発売中

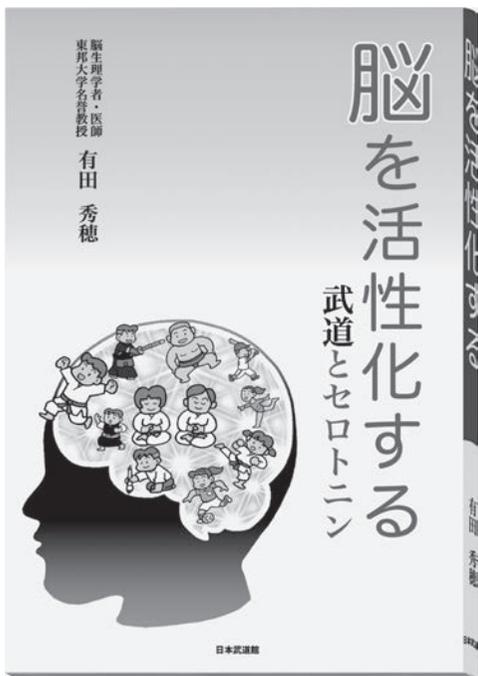
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著
(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家
小笠原清忠 著
(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者
吉野 喜信 著
(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター
辻 秀一 著
(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授
大保木輝雄 著
(四六判・上製・220頁)